

令和元年度 第3回大野市総合計画審議会

日時：3月1日(日) 午前10時～午後0時

場所：市役所 大会議室

出席者 大野市総合計画審議会委員 20名(欠席者5名)
政策局長、総合政策課長、総合政策課員

1 開会 会長あいさつ

2 報告事項

(1) 委員の紹介と出欠について

(2) 基本構想(素案)の中間報告について

基本構想(素案)の中間報告の内容を市議会に対して説明したことを報告。

3 議事

(1) 基本目標について

事務局より資料1に基づき説明。

質疑等

委員：内容は幹事会での意見から集約して事務局で作成したものか。また、目標については、幹事会で出たキーワードから集約して事務局で作成したものか。

事務局：目標、内容ともに幹事会での意見を参考としている。

委員：丁寧に作っていると思う。審議会委員に用紙を事前に配り、コメントをもらう形にしてもよかったかもしれない。

「健幸福祉」分野の目標「健康で自分らしく暮らせるまち」の「健康」を「健幸」とするとオリジナリティが出るのではと思う。「地域経済」分野の「新たな強み」とはどのようなものか。元々あるものと合わせて大野の強みにしていくのか。

事務局：「健幸福祉」分野については、「健幸」に置き換えられるものを検討する。

「地域経済」分野について、「新たな強み」というのは、これまでは大野市が都会から遠い場所に位置していたが、中部縦貫自動車道やリニア中央新幹線の開通に伴い、決して条件不利地ではなくなってくるという地理的な変化と、気候風土がよいところ、これらを表したかった。もう少しわかりやすいよう本文中に加えていきたい。

- 会長：高速体系の整備を入れてはどうか。技術革新については Society5.0 の記載で含まれていると思う。一番強調したいのは、大野市の高速交通体系は大きく変わり、大野市は中京圏に向けた福井県の玄関になるということ。これが大野市の強みになると思う。注釈を設けて説明してもよいと思う。
- 委員：「こども」分野について、「大野市らしい教育」とあるが、何か新しいカリキュラムがあるのか。
- 事務局：国、県の方針に従うことも基本にあるが、大野市独自の取組みとして例を挙げると、小学校高学年の英語教育について、義務化に先立ち、市独自の取組みとしてALTを増員し、全ての学校でALTと触れ合う機会をつくっている。また、大野市だけではないが、タブレット等を導入している。
- 会長：大野市は昔から教育が盛んなところ。大野市の特色などを子どもたちに教えられるとよい。大学でもPBL（問題解決型学習）で実践的な教育を進めていこうとしているが、自治体ごとに培われているものを前に出していくとよい。
- 委員：具体的な取組みについては、幹事会にて議論していくということによいか。
- 事務局：それぞれの分野の基本的な方向性が定まった後、幹事会に分野ごとに設けている部会で具体的な取組みについて検討いただく予定をしている。
- 委員：きれいな文章で網羅されているが、大事なことはどうやって具体化していくかということ。「地域経済」について、特に農業、林業について触れられていない。大野が抱える広大な森林をどうするかということについて触れられていないことが気になる。方針を立てる際はこれまでの反省を踏まえて、近い将来の目標を定めて、その先の目標をどうするか、という計画の立て方が重要だと思う。これから行われる具体化作業において大野市の現状をしっかりとらえながら、個別施策について考えてもらうことを期待したい。
- 会長：総合計画において漏れがあってはいけないと思っている。事務局案の中にも担い手確保については入れ込んであると思っている。例えば国では事業承継、M&A、起業に力を入れている。県、基礎自治体共に施策の中に盛り込んでいくことになると思っている。個別の施策については今後落とし込んでいくということをお願いしたい。
- 事務局：農業、林業のお立場からのご意見をいただけるとありがたい。
- 委員：「農林業などの」といった文言を付け加えてもらえればよい。あまり強調しすぎると寂れているように感じてしまう。現在の案の文章で後継者について書かれていると思っている。
- 会長：県内4万事業所のうち8千事業所が散髪屋などの身近な事業所。この8千事業所のうち3割が自分の代で事業を辞めると考えている。ほとんどの業種は縮小傾向であり、後継者が問題となっている。農業、林業だけの問

題ではない。一般的に全ての業種が縮小傾向にあることを考えると、それぞれの業種について個別に記載しなければならなくなる。今の記載のままですべての業種が含まれると思われるが、このままの記載ではいかがか。

委員：今の記載内容でよい。

会長：公募委員の方からご意見はないか。

委員：公募委員それぞれが幹事会では専門部会に所属している。幹事会では事務局が用意した叩き台を基に、委員が様々な意見を出し活発に議論し、進められている。

委員：10年後、20年後の先はどうなっていくかということをついてはどうか。今の国の政策は、地方の人口が東京へ流れるのは当たり前の政策になっている。人口が減少する地方はAIに頼るしかないと思う。10年後、20年後には機械が中心になるのでは。新型コロナウイルスの関係で、学校が急遽休みになった。子どもは家庭学習に取り組むことになるが、将来的には家庭でタブレットを活用して勉強するようになるのでは。

人口減少対策会議に出席した際にも述べたが、近い将来、人間はAIを使う人、アスリート、エンターテインメントといったものに絞られる。車は運転するのではなく、乗るもの、仕事は家庭で行うものになる社会になると思う。これを念頭に2年、3年後どうするか、という捉え方をしてほしい。

大野の自然を生かすということであれば、空気、水、森林をどう生かしたらよいかを考えてほしい。スポーツ協会も同じ。良い選手は都会へ行き、後ろ盾になる会社もあり、都会へ行けば何とかなる。地方ではスポーツクラブはアスリートを目指すもの、スポーツを楽しむもの、スポーツを見るものに分かれる。中心をどこに置くかということを考えていく必要がある。

大野だと自然しかない。自然は残すもの、昭和時代に戻すということができないかを考えている。これらを踏まえて見直してもらえるとありがたい。

会長：北陸経済研究所にAIの有識者がおり、AIは計算機であり、人間にはなりえないと言っている。新しい時代が来ると新しい仕事ができる。現在は、このあたりがまだ見えていない。

委員：先を見通し、その通り行くかどうかは分からない。今、分かっていることは人口減少、高齢化が進んでいること。この中で、大野市をどのように残していくかが問題。絵に描いた餅ではいけない。「地域経済」分野の目標にある、歴史・風土を生かすことが重要。新幹線は人を運ぶ。多くの人々がどこで降りるかを考えるとやはり金沢で降りるだろう。大野市の場合は中部縦貫自動車道が重要。道はモノも運ぶ。産業ができる。人がいないとどうにもならない。自然環境も必要だが、人とモノを運ぶ道路も必要。大野市にどうやったら人が来るかという根拠が必要。越美北線に人が乗って

もらうにはどうしたらよいかを考えておくことが必要。若者が集まるという状況を作らないといけない。

会長：基本構想ができた後で基本施策の中で落とし込んでいきたい。

(2) 人口の見通しと土地利用について（案）について

事務局より、資料2、2-1に基づき説明。

質疑等

委員：人口減少をなだらかにしていくことが目標だと思う。人口減少対策会議でも話をしたが、若者をいかに定着させるかが課題だが、具体的な方策は見えてこないのが現状だと思う。大野市の稼ぐ力をいかに増やしていくかということを考えていかないと、だんだん先細りになってしまう。何が大野市を支えているかは分からないが、国からの補助金を頼りにして経済が回っているということが大きいのではないか。大野市の地場産業をどうやって活性化させていくかということを考えるために、地域経済の現状を具体的に数字で示して、大野市の強みをいかに伸ばしていくかが重要。現代版大野屋ではないが、何とか産業を活性化させていく方法を考えないといけない。現場の方は考えているだろうが、大野の強みが見えてこない。小浜は食、丹南は伝統産業としている。大野市は何を強みとして全国にアピールしていくかについて危機感を持って取り組まないといけない。今すぐ結果が出てくるものではないので、具体的なものを進めていかないといけない。

委員：若者を定着させることが大野市の喫緊の課題。大野市へ人を呼ぶことを考えなければならない。和泉でも住みたいという人がいるが住む家がないという現状がある。住宅事情をもう少し良くし、外からの移住を促進することができないか。産業の誘致と同時に進める施策を行う必要がある。

会長：高速体系が整備されることは大野市がチェンジするには絶好の機会。総合計画とは別に大野の強みが見える化しなければならないと思う。まずは大野市民の考えを前に押し出していくような仕組みが必要だと思う。県内では鯖江市がIT企業を誘致し、鯖江市をブランド化している。色々な良い案をどんどん出し、実現するよう市にリクエストしていく必要がある。これらは具体化する段階で改めて意見をいただきたい。

委員：土地利用について内容がさみしい。ほとんどが森林と農地である。森林については人口減少の影響で不在村の森林所有者が増えている。農地については耕作放棄地が増えている。宅地については空き家が増えている。これらに対してこれから先どうしていくかを考えてもらいたい。

委員：人口減少が深刻な問題であることを改めて感じている。大野市に住みます、と言ったときに、福井市に住む、東京に住むということよりも、うら

やましいと思われるようなイメージが現状はない。大野市に住むことがうらやましいと思われるようにならないと人口減少は止められないのではないか。

会 長：10年前に比べると大野市は良くなってきた。中でも際立っているのは観光客が増えてきたこと。観光客が増えたがお金を落としていかないと経済の地域循環がよくなる。高速体系が整備されると県内で一番恩恵があるのは大野だと思っている。注目を集めることを一つでも二つでも作っていかなければならない。

会 長：(1) 基本目標について、(2) 人口の見通しと土地利用の内容について承認いただけるか。

⇒承認。

会 長：中身の細かい修正については事務局と相談しながら行いたい。

(3) 今後の予定について

事務局より、資料3に基づき説明。

(4) その他

委 員：大野市の現状、いま議論している総合計画について、大野市職員全体が認識し取り組んで行かなければならないと思う。

委 員：パブリックコメントが予定されているが、委員の皆さんは、パブリックコメントがあることを、周りの方に伝えていただき、基本構想に対してどのような思いを抱いているかという意見を出してもらいたい。パブリックコメントはどのような方法で行われるのか。

事 務 局：市役所市民ホール、結とぴあ、各公民館、図書館、大野市ホームページで周知し、意見を募集したい。

事 務 局：今年度の慎重審議に対するお礼と、来年度の協力を依頼。

4 閉会 副会長あいさつ

【会議資料】

- ・資料1：第六次大野市総合計画の基本目標分野
- ・資料2：人口の見通し、土地利用
- ・資料2-1：総合計画と総合戦略の位置づけ
- ・資料3：令和2年度スケジュール
- ・大野市総合計画審議会委員名簿
- ・国・福井県・大野市の人口増減率の比較